

## 〈2〉星が丘1丁目大谷石畳道路 (星が丘の坂道) 完全復元

星が丘1丁目大谷石畳保存会事務局 中川 博夫  
大類 智樹

### 1 ぜひ訪れてほしい！ 星が丘1丁目の大谷石畳の坂道

#### (1) ぜひ訪れてほしい、星が丘の大谷石畳の坂道

宇都宮市立星が丘中学校から、星が丘通りを挟んだ南側に日本遺産「大谷石文化」の構成文化財No. 25「星が丘の坂道」がある(図1)。

この道路は80年程前に造られ、近年は表面の大谷石畳が劣化していたが、宇都宮市によって令和2年7月27日から復元工事が行われ、同年10月11日に工事完了となった。これに至るまでには、石畳の存続についての賛否があり、市議会に陳情を行うなど、住民の間でちょっとした論議になったところである。

ここでは存続に至った経緯などについて、復元活動に携わった保存会事務局として、その方針や記録、また今後について述べてみたい。



図1 星が丘の坂道所在地

筆者作成

#### (2) 宇都宮の新名所、大谷石の魅力が満載した 星が丘の石畳の坂道

大谷石の坂道を踏みしめたとき、その石の優しさに、温もりに、眼前に広がる鳥の子色の景色に、

皆様が知っている大谷石ともまた異なる、新しい大谷石観に出会えることと思う。何より、出来あがって間もない真新しい大谷石畳を、その足で確かめてもらいたい。

識者はかつて、その魅力を次のように伝えている。

#### ◆四季を通じて大谷石の声を聴く

蝉しぐれが大谷石塀にとどろき、石畳に跳ね返る。大谷石の声は宇都宮の詩だろうか。



写真1 生まれ変わった大谷石畳と石塀

筆者撮影

#### ◆野州風土を露呈した道の迫力

この迫力はしばらくお預けである(写真2)。凸凹ある文様が露呈し、野州の風土をそのまま歩くといったものだろう。このような味わいが出てくるのは、半世紀後か一世紀後か。今、生まれ変わったばかりの石畳も、人と同じように生涯を歩んでいく気がしてならない。



写真2 かつての荒れた迫力の路面

筆者撮影

実は、この路面の迫力こそが、平成23年2月25日NHK「美の壺」で大谷石の魅力の一つとして全国に放映され、反面、通行の安全性に大きな懸

念があるとして、その後の論議に繋がっていく。

## 2 大類トクさんと星が丘の大谷石畳

### (1) 人生を大谷石畳とともに 大類トクさん

この大谷石畳の復元の話をするには、まず星が丘1丁目大谷石畳保存会会長の大類トクさんについて語らなければならない。

星が丘の大谷石畳と人生を共にしてきたトクさんは、この坂道の南側にお住まいである。大谷石畳と運命的に出会い、生涯に渡り石畳を愛し、保存を唱え続けた。下野新聞の〈雷鳴抄〉に紹介されている（図2）。



図2 下野新聞 2020年7月10日〈雷鳴抄〉

### (2) トクさんの大谷石畳との出会いと思い出

現在87歳のトクさんが10代だった頃。その頃はまだ戦後の焼け野原であり、街に映画を観に行くのが数少ない楽しみだったそうだ。当時、中戸祭町に住んでいた彼女は、幾度となく石畳の東側の道を通っており、その度に「何と美しい道だろう！」と、象牙色の石肌の坂道に感動したそうである。時が経ち、嫁いだ先は、なんと、その道路の南側の家だったとか。彼女は、運命だとさえ思っているそうだ。

大谷石畳の坂道は、子供が生まれてからはバドミントンやそりなどの遊びの場に、ときには隣の

奥様方との井戸端会議場など、地域のコミュニティの場としても活躍していた。

戦後間もない頃は、向いの（渡辺）屋敷が進駐軍に接收され、亡くなったご主人が将校さんに英語で話しかけられ、それから交流をもったという、時代を象徴するエピソードも残っている。

### (3) そして、大谷石畳は時代の寵児になっていく

時代は進み、平成後期になると石畳は劣化が進み、トクさんも高齢に。でこぼこの石畳を歩くことに不安さえ覚えるようになってきた。

ある日、買い物から帰ると、道にカメラやマイクを持った人ばかりができていて、「なんだろう」と立ち止まった時、突然、ディレクターから声をかけられたそうだ。今でもNHKで放映されている『美の壺』の出演のお願いだった。放送後は、各地のお知り合いから電話を受けて、その反響に驚いたそうだ。

その後も、星が丘の大谷石畳は、宇都宮美術館の図録・パンフレット『石の街 うつのみや 遺産と景観』などでも紹介され、知名度が上がっていく。

しかしながら、交通量の増加・雪剤の散布などもあり、劣化の一途をたどっていく。安全対策の必要性からアスファルトによる補修を繰り返さざるを得ない状況が続いた。

### (4) 気がつけば、過半の面積がアスファルトに、もはや石畳とは言えない

戦後数か所あったといわれる市内の大谷石敷きの公道で、ここは最後に残った唯一の場所である。この場所もいずれ消え去る運命にあるのでは。それでは悲しいとの思いから、一念発起し、平成29年7月8日「星が丘1丁目大谷石畳道路保存会」が結成され、トクさんは会長に就任することになった。その後は、開通式までの中心であったことはいうまでもないが、以降、組織的な活動となっ

ていく。

筆者たち、野州の石文化を研究している中川博夫と、正にその大谷石畳とともに育った大類智樹が事務局となり、当初の宣伝活動から開通式までを担い会長を支援した。

### 3 「星が丘1丁目大谷石畳道路保存会」の成立と宇都宮市議会への陳情

#### (1) 保存会の結成と復元の活動へと動かしたものの

平成29年の当会結成以前にも、様々な方から市への保存要望がなされていたと思われる。先人たちも、失われていく大谷石文化に警鐘を鳴らしていたのではないだろうか。特に象徴的な出来事として「旧宇都宮商工会議所」等の喪失があり「星が丘の石畳よ、お前もか!」と、公道最後の砦を死守せねば、との思いに駆られていたのかも知れない。筆者たちもこの運動にかけた思いは同じで、これ以上地域レガシーを失ってどうする、市民の恥だ、とまで馳せられた感がした。

#### (2) 「星が丘1丁目大谷石畳道路保存会」結成

当初PR文書を配ったりしたが反応は鈍く、もうこの大谷石畳も諦めようとする雰囲気が出ていた。最後にみんなで市に陳情してみよう、それなら、この保存の意見は、地元だけではなく文化関係者や学識経験者等、賛成の多くの方を統合する形で「保存会」として陳情すれば、市もその気になってくれるのでは、と考えた。

平成29年7月8日、石畳南の大類宅前に10名位の方が集まった。この先の不安はあったが、集まった人には、とにかく大谷石畳の復元に向けて活動していくということでした。暫く、苦しい時期が続く。

#### (3) 「星が丘1丁目大谷石畳道路保存会」の名称

保存会の名称は、実は、様々な思惑で構成して

いる。

・「星が丘1丁目」…後述の「住民のアイデンティティ」にもあるが、星が丘は宇都宮の発展に大変由緒ある地名で、1丁目とは、正にその中心に大谷石畳があることを強調している。

・「大谷石畳」…大谷石以外の素材で修復してほしくないという、強い願望を表現している。

・「道路」…他の「景観保持」などの言葉を使うと、行政の主管課が定まらないことを、勝手に心配したからである。

会の名称は、陳情のときから事務局で名乗らせていただいた。

\*開通式以降は「星が丘1丁目大谷石畳保存会」とした

#### (4) 宇都宮市議会に陳情

陳情先をどこにするかについては、様々議論があったが、関係者により広く理解を得たいことで、宇都宮市議会となった。紹介議員は地元の塚田典功議員に引き受けていただいた。

署名集めは、トクさんを始め、てんやわんやだった。1週間余りで104名の方からご署名をいただき、内訳としては6割が地元、4割は文化関係者だった。一行ばかりの署名捺印だったが、本当に今でも感謝の気持ちで一杯である。

平成29年8月25日 宇都宮市議会議長 渡辺道仁様あてに陳情書を提出した。

## 4 陳情を取り下げ 境界画定作業に地元として協力

#### (1) 公図不確定のため陳情取り下げ

宇都宮市議会では、この事業を実施するためには公図の確定が必要なこと、路面に大谷石を使用することについての検証が必要なことが主な課題になるとして、建設常任委員会の計らいで、担当課から保存会への説明の機会を作ってください、

平成29年10月27日、市役所で説明を受けた。

これらの経過により、石畳の道路の公図がこのまま不確定では、建設常任委員会で判定できず、永久に「継続審査」の決定が続く可能性が大きい、かつ道路保全課では、保存会と協議を継続の意向が示されていたので、平成30年1月22日陳情の「取り下げ書」を提出し、その後市議会で承認された。

## (2) 境界確定作業への協力

結局、このような大規模な工事を行うには、先に公図を確定させる必要があり、古い公図上、石畳の道は、北側の家屋の敷地と一体となっていて、石畳の土地の所有者のみならず、北側の家屋の敷地に隣接する全ての土地の所有者の立ち合いで、境界確認が必要とすることが判明した。

それは、道路管理課より宇都宮法務局の「不動産登記法第14条地図作成」へと引き継がれた。

市内にも、公図未確定の地域はまだまだ数多く残されている様で、この星が丘もその一つだった。公図の確定は、住む者にとっては死活問題である。地域としても元々の課題で、果たして全関係者の境界確認を経て、公図の確定ができるのか。もしかしたら土地の問題で頓挫して、これまでの苦労も水の泡と化してしまうのではないかと、心配した。それではと、市の説明に先立ち保存会スタッフで、近隣の一戸一戸に一連の動きを説明し、公図確定作業への協力をお願いに、足を運んだ。

その甲斐もあってか、法務局の公図策定作業はスムーズに運んだ。そして確定作業完了の知らせを受け、一同、大変安堵した。地域の土地の大事業にも、石畳は何か不思議な力を授けてくれたのでは？との思いがした。

一筋の光明が差す。

条件が整い、改めて道路保全課との協議に入る。

## 5 道路保全課と保存会の協議 ～そして官民協働へ～

### (1) 担当課と保存会との協議

市道路保全課と保存会との間で、実に2年間で十数回に及ぶ話し合いが持たれた（写真3）。お互いに膝と膝を突き合わせて解決の道を探り始めた。



写真3 話し合いは10回以上もたれた

筆者撮影

道路など、街づくり・文化的色彩の濃い場合は、広く話し合いを多く持つことの重大さを痛感した。当保存会において話し合った保存要望の趣旨は、概ね次のとおりである。

- これまで、旧宇都宮商工会議所等の大谷石の建物等で、地域レガシーを失ってきた。またここで大谷石の文化物件を失うことは、将来的に、禍根を残すことになる。
- 市道という一般公道に残る、唯一最後の大谷石畳である。戦後でも数か所あったとされる大谷石文化の一翼が完全に失われる。
- 近隣には、宇都宮市内では数少ない江戸時代の面影を残す「清住町通り」があり、一部住民の考えであるが、清住町通りの地域資源を生かしたまちづくりの構想に繋がる、観光資源がなくなる。
- 石畳は、宇都宮を住的に支えた星が丘の中心であり、宇都宮のアイデンティティでもあり地域のシンボルを失う。又、これは住民の

精神的より所でもある。

## (2) 論点を整理してみる

1. 市は、大谷石畳は、未来に継続すべき大谷石の景観といえるのかを、大学関係者・美術館に相談  
⇒後世に残すべき景観と考える。
2. 特定の大谷石畳の管理には労力が必要  
⇒「星が丘1丁目大谷石畳保存会」による、清掃等全面協力及び相互の連携。
3. 通行量により摩耗劣化の可能性  
⇒近隣の病院等に駐車場が設置され、通行量が減少している現状から、さしあたり問題ないと考えられる。
4. 道路経年劣化による今後の危険性  
⇒部分的な入れ替えが可能な工法の採用により全面的な張り替えの可能性を下げ、低コストの維持管理を可能に。⇒路面に危険性が認められれば、保全課で路面の成形を行う。
5. 法的問題点  
⇒道路構造令23条の2に例外規定あり。文化的色彩が濃いので、本項に該当する。
6. 見学者などの一般車両の制限  
⇒警察との協議で難しいと判明されたが、保存会からの〈お願い〉をすることで、乗り入れを極力遠慮してもらうよう努力する。
7. 「石畳の日本遺産を大切にす」ことで双方合意、社会啓蒙しながら進めていく  
⇒それらは「官民キョウドウ（協働）」で守っていく。

考えられる問題を忌憚なく話し合い、それぞれの項目を潰していった。この官民の協議は、地域の譲れない〈宇都宮のアイデンティティ〉という理念と、それを守ろうとするオール宇都宮の〈協働〉、互いにそんな思いに、到着していたのではないかと、振り返る。

## 6 それは、日本遺産に

いよいよと思った矢先、今度は嬉しいニュースが飛び込んできた。平成30年5月14日、宇都宮の大谷石文化が、日本遺産に認定されたのである。その構成文化財No.25に、星が丘1丁目大谷石畳道路も「星が丘の坂道」として含まれており、我々の主張が受け入れられつつあると感じた。復元事業にも追い風がふく。

この流れを受けて、地元の塚田典功議員が平成30年9月6日の市議会一般質問で、「大谷石文化の日本遺産のまちづくりの指針をうけて、今後の本事業の見通しを」と問うた。市側（飯塚部長）は、「保存会等と相談しながら、進めていく」として改めて、石畳の復元事業の実施を表明、この答弁の中にも官民「協働」の精神が強調されていたように思う。

待望の全面復元は、あと一步である！

## 7 「星が丘の大谷石畳よ 永遠に！」 地域のアイデンティティとは何か

近年では地方の均質化による、アイデンティティの喪失が叫ばれているが、この大谷石畳は、まさにそんな地域アイデンティティの一つだと思う。宇都宮市民にとっての地域アイデンティティとは何か、復元運動に携わったものとして、自問自答してみる。

### (1) 「星が丘の歴史」と大谷石畳

大谷石畳のある一帯は、明治17年の栃木県庁の埴田への移転より開発が始まり、宇都宮市制施行後の大日本帝国陸軍第14師団の設置により、住宅地としての発展が始まった。現在の星が丘の一帯には、渡辺御殿・小平御殿・狸御殿(?)があった。

この三御殿の、一つであった渡辺御殿の私道と

して作られ、地域住民にも開放され、後に市に移管されたのが、星が丘1丁目の大谷石畳である。

## (2) 「星が丘」の町名の成立

昭和40年、この地区に住居表示が実施された。それまで「戸祭町」であった町名が、「星が丘」として作られた新町名である。明治時代の衆議院議員で〈押しとおる〉の愛称で知られる「星(ほし)亨(とおる)」の〈星〉と、ロサンゼルスの世界的家宅〈ビバリーヒルズ〉を組み合わせ、この街にふさわしい造語になった。

## (3) 星が丘の坂道のアイデンティティとは何か

### ● その土地の風土

星が丘の坂道の下層は、恐らく関東ローム層で、その下は大谷石（または類似性質の）岩盤層があるように思う。大谷石は、この土地で生まれ育った我々の、体の、何処かになじんでいるような気がする。

### ● 星が丘の歴史 その中心に石畳がある

築かれてきた歴史も、重要な要素である。石畳の復元が終わった今、我々が頑張ったから実現した、どうもそれだけと思えない。それは星が丘の歴史という無形の力が、石畳を残させたのでないかと思う。

### ● そのほか、人情・習慣等

近所の皆様にとって、あの大谷石畳は、人と人との、日々の、心のふれあいの場でもある。

## (4) 人の文化と石畳 ～時空を超えて～

石畳は、人類発生とともに使用されている。国や地域を問わず、世界各地に存在している。多くは身近な石を使用しており、地産地消の最たるもので、今も、大谷石畳が個人宅のアプローチなどで使用されているのを見かける。人の舗装道路の歴史のほとんどは、石畳といって過言でないようである。

### ● ローマに通じる「アッピア街道」

典型的なものとして、紀元前300年頃の石畳が現在も使われている、アッピア街道がある。「街道の女王」ともいわれている。

### ● 日本国内では、国道308号の「暗峠」

江戸時代の参勤交代のものが、現在も使用されて、日本の道百選に選ばれている。

### ● 東海道ルネッサンス運動で復元された、江戸時代の島田市の石畳 1.4km

これだけ自動車が普及した現代においても、ヨーロッパでは石畳道路が愛されている。例えばフランス車の足回りは俗に「猫足」などと呼ばれることがあるが、猫足は石畳の道路を、快適に走るために進化したものである。道路を自動車に合わせて作り直すのではなく、道路に合わせた自動車を作る。そういった発想になるのは、石畳の文化がアイデンティティであり、残していかなければならない、財産であるからに他ならないだろう。

---

## 8 「星が丘の坂道」に百年の計あり

---

### (1) 星が丘の坂道の課題

見事に復元された、星が丘の大谷石畳だが、まだまだ課題がある。当該道路は市道となったことで公的に管理され、失われるリスクはなくなった。しかし、当地を大谷石の立体的空間として捉えた場合、この大谷石畳、坂の南北に聳える大谷石塀、坂下に建つ戦争遺構の黒く塗られた石蔵が、セットとなって景観を形成している（写真4）。道路以外はいずれも一般市民が所有するもので、維持管理に苦勞している話も聞いている。どうすれば大谷石の創造する都市空間を残せるか。すぐに答えは出ないが、今後も知恵を絞っていかなければならない。

### (2) 失ったものは復元したい

宇都宮が誇る大谷石の名建築として、昭和3年



写真4 三面大谷石の空間と戦争遺構の黒い蔵  
奥に聳える八幡山の宇都宮タワー

筆者撮影

に建てられた旧宇都宮商工会議所がある。現在は、正面玄関部分のみが栃木県中央公園に移築保存されているが、地域の特色を生かしたまちづくりを進めていく上では重要なシンボルになるはずである。宇都宮城址公園が市民の熱意で復元されたように、いつの日か、その価値が見直され、宇都宮の近代化のレガシーとして復元されることを願ってやまない。

### (3) 大谷石畳に百年の計あり

市民の方々の長い間のちょっとした論争と、復元運動、宇都宮市議会への陳情、日本遺産認定、この間幾度となく、道路保全課の皆様との話し合いが行われ「官民協働の保存」という合意が形成されたことは前述の通りである。ここに、市と保存会共通の無念さがあったことを、最後に述べさせていただきます。

それは、復元前の石畳が80年余りしか持たなかったこと。冬季の通行の安全を確保するために融雪剤を散布し、それによる表面の劣化によって大谷石畳は朽ち果て、その凸凹を埋めるために異質なアスファルトで補修して、ついに力尽きた。この市民にとっても大切な日本遺産を、今度は、100年以上持たせてやりたい。たやすくこの石畳が打ち換えられることは望んでいない。今、白く眩い、市道の女王かのような石畳も、時と共に変

身し、シワが増え、シミそばかすが出ても、それは華麗なる老女への成長とした、100年200年先を見守りたい。地球に優しい大谷石、その石畳の今後が楽しみである。

確かにアスファルト舗装は初期投資を比較的抑えられ、耐久性、排水性、平滑性など、さまざまな性能が自動車の通行に適している。

しかし、国内、海外の事例からも分かるとおり、石畳というのは地域の歴史や文化を象徴する、宇都宮のシンボルでもあり、今回の復元活動は、市民として住民として、簡単には譲れなかったのである。

そして、想像より大谷石は強かったと言わせた。故郷の自然石の強さを百年後、アスファルトより（仮に10年に一度、10回打ち換えとして）経済効率も良いことを証明してくれることを期待している。80年余の間一度も変わらず、お世話になった、寂しく別れた、かつての石畳の大谷石に、ありがとうの言葉を投げかけて！

## 9 「星が丘の大谷石畳」開通式 大類トクさんは今も見守り続ける

こうして一度は消えかけた公道の大谷石畳は、宇都宮の大谷石文化の象徴の一つとして、後世にその姿を残すこととなった。

待望の開通式は令和2年10月11日、保存会主



写真5 開通式でのテープカット

筆者撮影

催で行われた。前日までの雨もやみ、穏やかな天気となった。時節柄派手なことは出来なかったが、予想に反して50名を超える方々に出席いただき、本当にうれしい限りだった。

席上、招待者の佐藤栄一市長は「（行政）と市民協働で復元された遺産」として、官民協働の成果であると強調。我々の主張する日本遺産等の文化財の継承には、オール宇都宮の「協働」の考えが共有されていると感じた。これは単に市担当課と保存会の合意を越え、広く市民共通の理念として、引き継がれていくものと、意を強くした次第である。

先日、大類トクさんは、野外見学に訪れた昭和小学校三年生を案内し「みんな一緒に飛んでごらん」と温もりある大谷石畳で飛び跳ねて楽しんだという。在りし日を偲ぶ、そんな微笑ましいエピソードが今後もつづく、地域のシンボルであり続けることを願っている。

皆様も是非、星が丘の大谷石畳を訪れて、見て、その足で、大谷石の温もりを確かめてほしい。

最後に「保存会からのお願い」にも我々の気持ちもこめられておりますので、掲げておきます。

#### 星が丘1丁目大谷石畳保存会からのお願い

1. この大谷石道路は住宅地にあります。ご見学の際は、近隣の方々のご迷惑にならないよう、お静かにお願いします。
2. ご見学の方の自動車の乗り入れは、ご遠慮いただいておりますので、最寄りのコインパーキング等をご利用ください。
3. 融雪剤の散布は行わないでください。大谷石畳が急速に劣化します。降雪時は周辺道路への迂回をお願いします。
4. 貴重な大谷石文化の日本遺産です。みんなで大切に守っていきましょう。

#### 星が丘の大谷石畳 参考図書・報道等

- 2010年2月25日 放映  
NHK「美の壺」 file 202 「大谷石」
- 2015年3月3日 発行  
宇都宮美術館 「大谷石の来し方と行方」
- 2017年9月7日 朝日新聞 地域欄  
「大谷石の石畳 復元・存続を」
- 2020年6月16日 下野新聞  
県央・宇都宮欄 「大谷石畳全面復元へ」
- 2020年10月13日 下野新聞  
真新しい大谷石畳に「星が丘の坂道復元完了」